

2021年度 事業報告書

(2021年4月1日から2022年3月31日)

特定非営利活動法人 はなはな ひろば
理事長 吉田 亜希子

1. 事業活動報告

特定非営利活動法人 はなはなひろばの第15期目の活動は、2021年4月1日から2022年3月31日の12か月である。

期末現在の会員数は、20名(この内休会会員は4名)、賛助会員数は10名である。

期中の新規入会会員は0名、脱退会員1名である。

2. 事業内容

＜特定非営利活動に係る事業＞

I) 親と子のつどいのひろば事業

- ほっと安心できる子育てひろばとして、0歳から未就学児とその養育者がいつでも自由に集える場の提供を目的とする。
- ひろばの利用料は1家族1日100円。同じ日に再来することがあっても、一度受け付けていれば利用料はもらわない。
- 月曜日から金曜日までの平日は毎日、偶数月の第2土曜日、奇数月の第3土日も開設した。毎週月曜日と水曜日の午前中を“赤ちゃんタイム”とし、よちよち歩きまでの子どもと養育者だけの時間帯にした。
- 日本語が理解しづらい利用者のために、英語版の利用のしお리를用意している。
- 日常のひろば活動の他に養育者の希望も取り入れ、月2回程度のイベントを予定した。
- 養育者の育児負担の軽減を図るため、6か月から未就学の子どもを対象に一時預かりを行った。
- 遠方であったり、また何らかの事情でひろばへ足を運びづらい養育者のために「子育てメール相談」を行った。希望がある時や必要と思われる時には面談も行った。
- コロナ禍が収まらない中でひろばの開設に当たっては、感染予防のため、設備等の消毒を徹底し、運営も感染予防を最優先にした。
- この事業は、横浜市「親と子のつどいのひろば事業」としての委託を受けている。当期、委託金額は8,101,000円(うち一時預かりに関わる補助金は1,689,000円家賃補助720,000円)。

④ 日常ひろば活動

活動状況は次の通りである。

通常ひろば活動日数：236日 利用組数：1,138組 利用人数：2,480人

- a) コロナ感染の予防対策として以下の対応をした。
 - スタッフは勿論の事、利用者にもマスク着用・手洗いと消毒・検温などを徹底した。
 - 利用は午前と午後で定員を設けた入れ替え制にし、午前と午後の終了前15分は閉館してひろば設備等の消毒をした。
 - 前日にひろば利用の予約ができるようにし感染者を確実に事前に把握していった。
 - 蔓延防止法の適応と解除、また地域の状況に合わせて利用人数等を見直した。
 - 利用者の食事、おやつ時間は設けず中止にした。
- b) ひろばの情報をより早くに伝えられるよう、ホームページの他に幅広くSNSの活用をした。
- c) 区役所、保健センター、地区センターなど地域の子育て支援に関わる機関や赤ちゃん訪問員にチラシを配ってもらう等ではなはなひろばを宣伝、紹介してもらえた。
- d) 地域の子育て関連施設のチラシを掲示、ひろば内に配架、または利用者に手渡しをして情報提供した。
- e) ホームページで知ったという以外に、友達からの紹介やひろばの前を通った時に気になり来所し

た親子がいた。

- f) 保健師が気がかりな親子をひろばへ導き、その親子が通常利用に繋がるケースもあった。
- g) ひろばを利用する親同士が情報を交換し合うなど、ひろばでの出会いが別の所での交流にも繋がっていた。
- h) スタッフは子育て中の親が安心して寛げるよう心掛け、初めて来所した親子を居合わせた利用者に紹介し、ひろばに打ち解け易いように意識的に働きかけた。また、リピーターの親子が新規の利用者に声掛けをして気持ちを和ませる役割をしてくれた。
- i) 母親以外の保護者が利用するケースも増えた。(父親、祖母、友人など)
- j) 近年、徐々に利用者が減ってきている。子どもが成長すると働き始める母親が増え、来所する子どもが低年齢化し、早いうちから保育園に預けてしまうようになったことが一因と思える。昨年度に比べひろば開設日が30日以上増えた一方で、一日の平均利用者数は前年比約63%だった。

広場利用実績

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
総開催日数	236日	202日	220日	239日	236日	237日
利用者数	2,480人	3,381人	3,650人	4,617人	5,663人	5,456人
1日平均	10.5人	16.7人	16.6人	19.3人	24.0人	23.0人

2021年度月別利用状況は以下のとおりである

月別利用状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	利用組数		117組	89組	116組	119組	72組	75組
利用人数		252人	193人	250人	263人	159人	168人	155人
月別利用状況	月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
	利用組数	86組	100組	98組	86組	105組	1,138組	4.8組
	利用人数	198人	215人	211人	195人	221人	2,480人	10.5人

⑤ イベント

年間に催したイベントは次の通りである。

新型コロナウイルス感染症予防のため、予定していたイベントを幾つか中止した。(計7回)

- a) 蔓延防止法適用に伴い9月と翌年3月のイベントは中止にした。解除後も状況に応じて定員の見直しをした。
- b) 日常の活動を大切にするためになるべくイベントの回数を抑えるようにしたが利用者の希望もありコロナの感染状況を見ながら、今年度も9月、3月以外は月に2回程度開催した。
- c) 「親子体操」は内容を見直し、激しい動きを避けたものにした。
- d) 鶴見区の保育・教育コンシェルジュによる保育園探しの説明会は、分かりやすい説明と参加者からの質問への対応が好評だった。
- e) 鶴見区の子育て支援員から母親向けに子供への対応の仕方について話してもらった。(子どもに伝わるコミュニケーション)
- f) 「はなはなひろば」の活動に賛同した人が月に1~2回ボランティアで来所し、その日の子どもの様子を見ながら絵本の読みきかせなどをして親子を楽しませてくれた。(おはなし会)
- g) 月に一度「保育士さんと遊ぼう」と題して、近隣の保育園から保育士にひろばへ来所を願い手遊びやお話しなどをしてもらった。参加した親子は次回を楽しみにしていた。育児の相談をする親もいた。
- h) 「絵本とともだち」は毎回参加希望者が多い。感染対策を考えZOOM参加を取り入れたが直接参加に人気があった。
- i) 記念行事は、ひろば開設15年という節目の年になるので、参加人数制限や入れ替え制にするな

- どの感染予防に工夫をして開催した。(からくりと手作りおもちゃの展示、スライドショーなど)
- j) 今年度も「誕生会」は行わず、その月に誕生日を迎える子どもに写真と手形をプレゼントし、その場に居合わせた親子とスタッフが歌を歌って成長を祝った。
 - k) イベントを中止せざるを得なくなった期間に行き場を制限されている親子のために、スタッフの考案で季節を感じられる工作の日を設けた。来所した親子がそれぞれ自分なりの作品作りを楽しんだ。好評だったのでその後も時折工作を楽しむ時間をつくった。

イベント回数と参加人数

保育士さんと遊ぼう 9回(45組94人)※3回	絵本とともにだち 2回(13組28人)※2回	おやこ体操 4回(23組48人)※2回
ベビーマッサージ 6回(20組40人)	おはなし会 14回(46組94人)	15周年記念 1回(36組76人)
子どもに伝わる コミュニケーション講座 1回(3組7人)	保育・教育コンシェルジュ 1回(7組15人)	※中止回数

合計 38回 (193組 402人)

◎ 一時預かり

今年度の一時預かり実績は次の通りである。登録者数は3月末まで550名(今年度は32名)となっている。

一時預かり活動日数：236日

- a) 預かり時のスタッフ体制は1人の子どもに対して必ず1人のスタッフを配置し、安全に細心の注意を払った。
- b) 預かり登録数は増えつつあるが実際に利用するところまで至っていない親子もいる。
- c) 他の子どもの預かりの様子を見て、利用を迷っている親が自分も預けてみようという気持ちになれるよう働きかけた。
- d) スタッフの多くが預かりを担当するようになった。
- e) 預かりの時に気付いた課題についてはその都度話し合いの場を持ち、スタッフ全員が共通認識を持つようにした。
- f) 個人情報である事を前提に、事情を抱える親子についてはスタッフ全員に周知し、預かりの際には落ち度のないよう細心の注意を払った。
- g) 親のやむを得ない事情で、予約なく急に預かりを依頼された時はできる限り要望に添えるようにした。
- h) 預かり中は、通常のスタッフも積極的に預かりの子どもや担当スタッフへの気配りをした。
- i) 預かりのある時に居合わせた親も子ども、預かりの子に優しく気持ちを寄せてくれていた。
- j) 預かりが急増した昨年度に比べて今年度はその約61.3%に減少、利用時間もそれに応じて前年比で約60.6%になっている。日常のひろば来所者の減少や来所する子どもの低年化が関係していると思われる。
- k) 一度預かりを利用すると繰り返し利用する保護者が多かった。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
利用者数	17人	10人	11人	16人	20人	15人	20人
総利用時間	47時間	24時間	31時間	47.5時間	80時間	54.5時間	50.5時間
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
利用者数	7人	8人	12人	2人	19人	157人	256人
総利用時間	24.5時間	20時間	31時間	8時間	64時間	482時間	794.5時間

④ 子育てメール相談

- a) 相談者の思いを第一にして、その相談者の気持ちが落ち着けるように、また課題を抱えている場合は自分の力で解決の糸口を見つけられるようになることを心掛けてメールのやりとりをした。
- b) ひろばでは対応が難しいと思われるケースは専門機関を紹介した。
- c) 初めての子育てでは、経験者から見ればほんの些細に思える事柄でも、ネットなどで様々な子育てに関する情報が発信されているためにかえって不安を抱いてしまう場合がある。そのような時に話せる人がいなかったり、また自分から直接相談に出掛けにくい場合の相談ツールのひとつになっているように見受けられる。

Ⅱ) おでかけ広場

- a) 近くに“おやこのひろば”のようなくつろげる場がない親子のために、鶴見区社会福祉協議会との共催で同社協の一室を使用して「おでかけ広場」を開設した。(コロナ感染予防のため利用できる組数を決めての開設となった)
月 2～3 回、主に金曜日の午前 10 時～12 時の 2 時間。
開設：31 回 利用人数 89 組 189 名
- b) 利用する親子は、生麦にある「はなはなひろば」までは足を延ばしづらいが「おでかけ広場」なら通いやすいと言ってやって来る。コロナ禍にあっても利用者は少しずつ増えている。
- c) 「おでかけ広場」の利用をきっかけに「はなはなひろば」まで出向いたり、時にはイベントにも参加する親子がいた。

Ⅲ) その他：地域との交流

- もとひろば利用者や近隣の方々からの好意で、使わなくなった子供服やおもちゃ等の提供を受けた。
- 同じ地域で活動している「NPO 法人 なまむぎこども食堂」との交流がさらに深まった。
- 鶴見区の NPO 法人「ままっぷ」の活動に協力し交流した。
- 近隣の保育園や子育て中の親の会などから、会の案内やイベント等の情報を寄せられた。

貸借対照表

2022年3月31日 現在

特定非営利活動法人 はなはなひろば

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	26,469	
預金合計	3,736,756	
流動資産合計	3,763,225	
2. 固定資産		
固定資産合計	0	
資産合計		3,763,225
II 負債の部		
1. 流動負債		
流動負債合計	468,174	
2. 固定負債		
固定負債合計	0	
負債合計		468,174
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	2,520,774	
当期正味財産増減額	873,277	
正味財産合計		3,394,051
負債及び正味財産合計		3,295,051

2021年度 活動計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

特定非営利活動法人 はなはなひろば

(単位：円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費 (賛助会費含む)	119,600		
2 受取寄附金			
受取寄附金	287,134		
3 受取助成金等			
受取補助金 (横浜市子育て支援課)	8,420,000		
4 事業収益			
利用料、一時預かり利用料	342,320		
5 その他収益			
受取利息	22		
雑収入	26,000		
経常収益計			9,195,076
II 経常費用			
1 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	4,749,000		
人件費計			4,749,000
(2) その他経費			
旅費交通費	496,982		
交際費	37,629		
公租公課	0		
事務用品費			
謝金	134,750		
修繕費	41,500		
消耗品費	346,711		
新聞図書費	19,096		
水道光熱費	114,135		
送金料	4,511		
諸会費	17,375		
家賃	2,040,000		
賃借料	200		
通信費	62,986		
保険料	64,920		
印刷費	94,063		
会議費	22,189		
備品費	174,130		
雑費	522		
その他経費計			3,671,699
管理費計			8,420,699
経常費用計			
当期経常増減額			
III 経常外収益			
経常外収益計			
IV 経常外費用			
雑損失	-100		
経常外費用計			
当期正味財産増減額			774,277
前期繰越正味財産額			2,520,774
次期繰越正味財産額			3,295,051